

## 30年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 10月1日～ 30年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は5社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
入荷動向	国産材	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	外材	0.0	0.0	0.0
在庫動向	国産材	12.5	12.5	0.0
	外材	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は10月、11月の減少から12月は横ばいに。外材は3カ月連続横ばい推移。

・国産材の在庫動向は10月、11月の増加から12月は横ばいに。外材は3カ月連続横ばい推移。

## (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
国産材	12.5	0.0	0.0
欧州材	0.0	16.7	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷価格は横ばい。

・欧州材、その他(米ヒバ)は横ばい。

## モニターからのコメント

## (ラミナ荷動き)

・外材ラミナの入荷及び使用量が同量で継続しているため在庫は横ばいで推移。  
・外材の仕入契約を減らした分、翌月から反映される。少々生産増のため在庫はラミナ減となる見込み。  
・国産材ヒノキ入荷動向は、10月は自社製材工場の稼働好調ということと、製品販売の方の市況が今一よくないこともあり、集成材生産も増やせなかったことからラミナ在庫過多状態。年内は協力工場には大変申し訳ないがラミナの仕入れは絞る方向で調整。米ヒバは、当社の生産が上がらなかったため、入荷を抑えて来たが、8月からは通常の間月1,200m3程度の入荷に戻した。10月以降も同様のペースで入荷していく予定。国産材ヒノキの在庫動向は、これまでヒノキ集成材生産量は増えて来たが、今度は完成品の販売が伸び悩みつつある。そのため、生産を若干調整しヒノキ集成材の生産量も若干抑える方針。従って、余剰となったラミナ在庫は増える傾向。自社製材工場の稼働は落とさたくないため、外部からの購入ラミナを減らし、調整をする。米ヒバは、一時の現地での素材集材難は完全に払拭され、ラミナも計画通り入荷は進んでいる。11月、12月と販売量や生産量が大きく変わることも相違なく、年内は安定的に推移する予定

## (ラミナ価格動向)

・ヒノキラミナの価格動向は、7月西日本豪雨があり、ヒノキ原木入荷が非常に厳しく協力工場各社は値段を上げたいのだろうが、当社のラミナ在庫も十分にあり、今の所慌てて買う必要が無いので、今の所値上げはしないで購入できている。輸入ラミナの話は情報が取れていないが、世界的な木材需要の高まりを受け、少なくともラミナ値段は安くはなっていないと思われる。米ヒバは急激に値上がりした米国向け米スギ材の代替需要により、米スギにつられて値段が上がってきたが、ここに来て米スギ価格は完全に天井に達し下落し始めた。米スギが手に入るのであれば米ヒバに対する代替需要も落ち着き、現在では横ばいから若干弱含み基調で推移している。

## 30年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
生産動向	国産材	0.0	0.0	12.5
	WW集成管柱	25.0	25.0	25.0
	RW集成平角	16.7	16.7	0.0
	米マツ集成平角	25.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	12.5	25.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	50.0	50.0
	RW集成平角	16.7	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	25.0	25.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材の生産動向は10月、11月の横ばいから12月は増加に。WW集成管柱は3カ月連続増加。RW集成平角は10月、11月の増加から12月は横ばいに。米マツ集成平角は10月の増加から11月、12月は横ばいに。

・国産材の出荷動向は10月、11月の増加から、12月は横ばいに。WW集成管柱、米マツ集成平角は10月の横ばいから11月、12月は増加に。RW集成平角は10月の増加から11月、12月は横ばいに。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
スギ集成管柱	0.0	12.5	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	25.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	△ 25.0	0.0
カラマツ集成土台	12.5	0.0	0.0
WW集成管柱	25.0	0.0	25.0
RW集成平角	△ 33.3	△ 16.7	0.0
米マツ集成平角	25.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	25.0	25.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

- ・スギ集成管柱の価格動向は横ばい。
- ・ヒノキ集成柱、集成土台とも横ばい。
- ・カラマツ集成土台、集成平角とも横ばい。
- ・WW集成管柱強含み。
- ・RW集成平角は弱保合。
- ・米マツ集成平角は横ばい。
- ・米ヒバ土台角強含み。

## モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

- ・スギ、カラマツともにピークがない。昨年よりも現場の遅れが多くプレカット工場も出荷残が滞留、在庫置き場も手狭になっている。公営の復興住宅も落ち着き地場工務店の仕事量も減っている。
- ・RW集成平角の受注分を生産に向けた。やや出荷増。輸入修正梁在庫増により出荷に影響あり。
- ・ヒノキ構造用集成材の生産動向は、10月は先月比横ばい推移。11月は工場の設備一部更新予定しており、作業中は生産が少し落ちるものと予想。12月は11月の生産遅れを取り戻すべく、増産体制を目指す。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しづつ市況回復基調にあり」とのことで、メーカー各社は年末に向け若干の増産体制に移行しつつあるのではないかと。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、10月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。WW、RWの正角管柱の在庫が少なかつたのに対し、RW集成平角はまだまだメーカー在庫や各港倉庫にある輸入品の在庫も豊富と言われ、増産に転じるにはまだ早い。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。米ヒバ集成土台は、8月生産が落ち込み、9月はその遅れを挽回すべく増産に転じたりとバタバタしたが、在庫、販売、生産とようやく全てが安定、10月以降は安定して月産800m<sup>3</sup>の生産を継続できる見込み。
- ・ヒノキ構造用集成材の出荷動向は、10月販売低調であった8月、9月に比べると多少受注は回復してきた。またヒノキ集成管柱は売り難い傾向が続いていたが、こちらも多少受注が回復。市況感も少しづつ良くなりつつあり、今後多少ではあるかもしれないが出荷増が期待できそう。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しづつ市況回復基調にあり」とのことで、メーカー各社は年末に向け若干出荷も増えて行くのではないかとと思われる。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、10月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。WW、RWの正角管柱の在庫が少なかつたのに対し、RW集成平角はまだまだメーカー在庫や各港倉庫にある輸入品の在庫も豊富と言われ、まだ出荷増に転じる様子はない。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で出荷が減る可能性も。米ヒバ集成土台は、8月生産が落ち込み出荷も減少、9月はその遅れを挽回すべく増産に転じ多少出荷増加、10月以降はようやく生産

(構造用集成材の出荷価格動向)

- ・スギ集成管柱は相場が動かず、値上げしたいが上げられない。カラマツ土台・平角は今のところ横ばいであるが、事情は厳しさを増している模様。原料が値上がりする可能性もあるため、横ばいでは厳しい局面も見込まれる。
- ・RWは西のメーカーより価格下げの案内が活発化。
- ・スギ集成管柱10.5×10.5×2.85・2.98m、12×12×3m、ヒノキ集成土台10.5×10.5×4mはビルダーからの指定が多いため、安定出荷を継続も単価は据え置き。
- ・杉集成管柱の出荷価格動向は、当社生産品目ではないが、大手メーカーが安定量産体制を整えたことから、在庫潤沢に抱えているとの噂もあり、一部価格の弱含みも聞く状態。弱含み傾向で当面横ばい推移と予想。ヒノキ集成柱は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。ヒノキ集成土台は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、年明け以降荷動きは急激に低下、4月以降徐々に盛り返してきているものの、どちらかと言えばまだ低調気味。価格は1月に一度値下がりしてから横ばい推移が続く。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しづつ市況回復基調にあり」とのことで、値上げは出来ないまでもこれまでの弱含み傾向の横ばいからは脱するのではないかと。RW集成平角は、ラミナコスト上昇に伴い製品販価63,000円/m<sup>3</sup>程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。期待した秋需の盛り上がりもなく、完全に弱含み状態。原料のラミナコストは一方的に上昇しているため、国内サプライヤーは非常に苦しいポジションを強いられているものと推察。相場も60,000円/m<sup>3</sup>から6万円を切る様な話も聞く。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。米ヒバ土台角は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。